



セキュリティ断捨離

— 意思決定支援サービス —

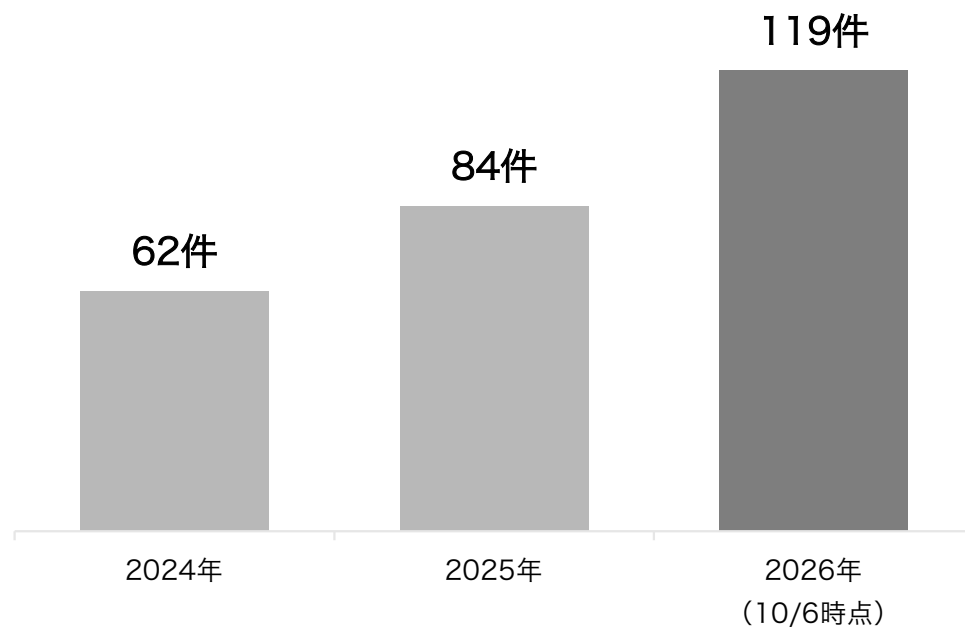
その設定、本当に使っていますか？

株式会社ジーカス | サービスご紹介資料 2026年10月

背景① 2026年、国内で「情報漏えいドミノ」が起きている

国内Webシステムからの侵害公表は、2026年10月時点で既に前年の約1.4倍

国内Webシステムからの侵害公表件数



約7割

2026年の公表のうち、7月以降に集中

10件

100万件以上の大規模事案（2025年通年の6件を超過）

目立つ手口

- ・ APIの悪用、既知の脆弱性
- ・ 管理ツールの外部露出
- ・ 開発用クラウドなど放置環境からの流出
- ・ 委託先・クラウド基盤経由の波及

出典：マクニカ「相次ぐWEBシステムからの情報漏洩事案について」（2026/10）、ラック LAC WATCH（2026/10/15）、JPCERT/CC注意喚起。件数は各社集計・公表時点の値

背景② ベンダーも診断も入っている。それでも、なぜ漏れるのか

私たちの見立て：攻撃が高度だからではなく、「放置された入口」が残っているから

実機の設定を見ていない

診断は「依頼された範囲・要件」に照らして行われる。実機上の設定そのものまでは確認されにくい

さらに「設定は合っているはず」「うちは大丈夫だろう」という思い込みが、確認を遠ざける

「今も必要か」を誰も問わない

異動・PoCの残骸・使わなくなった連携。不要なポート、アプリ連携、要件がそのまま残り続ける

さらに、日々の業務に追われ、棚卸しする時間そのものが取れない

経営層は判断できない

見方が分からないため、ベンダーを信用するしかない。現場が気づいていても、経営まで届かない

判断材料がないため、使っていないアカウントやライセンス、連携の費用も払い続けてしまう

指摘はツールでもできます。必要なのは「これを消していいか」を決めることです。

※個別事案の原因の多くは未公表で、本ページは弊社の見立てです。

● ● ● サービスのゴール

使っていないものを根拠をもって捨て、現場から経営層まで「消すか」を判断できる状態にする

管理する脆弱性が減る

侵入口（不要なポート・アプリ連携・アカウント・権限）を消し、パッチや監視の対象そのものを減らす。使っていないライセンスや連携の費用も削れる

無駄な業務が減る

「本当に使っているか」をログで確かめて決める。「念のため」残したものの管理や、同じ議論の蒸し返しがなくなる

経営層の悩む時間が減る

何が・なぜ危ないか、消すと何が困るかを経営層の言葉に翻訳する。判断の材料がそろい、「消していいのか」と迷い続けなくなる

本サービスで行わないこと

脆弱性診断・ペネトレーションテスト

本サービスでは設定とログの確認のみ行います。診断が必要な場合は別途ご相談ください

修正作業の代行

削除・変更はお客様に実施いただきます。作業の支援は別途対応できます

製品・ツールの販売

販売はせず、中立の立場で製品・ツールの選定をご支援します

既存のセキュリティベンダー・診断を否定するものではなく、実機を見る第三者としてのセカンドオピニオンです。

サービス提供の流れ

実機の事実を整理してから、現場から経営まで同じテーブルで話す



STEP3 断捨離会議が、このサービスの山場です

「現場は知っていたが、経営には届いていなかった」——その断絶を実機の事実で見える化します。責任の押し付け合いにはせず、議論を「では、何を捨てるか」に戻すことが弊社の役割です。

サービス提供内容① 安心してお任せいただくための診断ルール

お客様の環境に何も残さず、作業内容は、すべてお客様側の監査ログで追跡できます。

一時アカウントで実施

- ・ 診断期間に限った期限付きの付与
- ・ 読み取り専用ロールのみ
- ・ MFA必須・個人名義（共有不可）
- ・ 終了時にお客様側で削除し、削除確認を報告書に記録

APIもスクリプトも使わない

- ・ 管理ポータル・コンソールの画面で確認
- ・ 画面からの標準エクスポート（CSV等）のみ利用
- ・ お客様環境にツールやスクリプトを置かない
- ・ 確認手順と証跡（画面キャプチャ）を残す

ログという根拠で判断

- ・ 「使っているか」は利用ログで確認
- ・ ログ保持期間が短い場合は、事前の蓄積期間をご相談
- ・ 判定は「残す／消す／要確認」の3区分
- ・ 消すと何が困るか、影響もあわせて提示

Appendix AIのみで確認する場合と、弊社が入る場合の違い

AIは「指摘」が得意。弊社は「決める」ところまでをご支援します

観点	AI・自動ツールのみ	ジーカスが入る場合
網羅的な一次チェック	◎ 速く、広く、安価	○ 手順に沿って画面で確認
環境への影響	△ API連携やスクリプト実行が必要になりやすい	◎ 読み取り専用の一時アカウントのみ。何も残さない
「使っているか」の判断	△ ログの数字は出せるが、業務の文脈は分からない	◎ ログ+ヒアリングで、業務上の必要性まで確認
消した場合の影響	△ 一般論の提示にとどまる	◎ お客様の業務に即して説明
現場と経営の合意	× 対象外	◎ 断捨離会議で同じ事実をもとに合意形成
説明責任	△ 判断の根拠を人が説明し直す必要	◎ 第三者として根拠と経緯を記録

AIの網羅性とスピードは有効です。弊社はそれを否定せず、「これを消していいか」を決めるための判断と合意形成を担います。